

ザ・ボディショップ、 スターバックス、 どちらの経営も MBAの学びなしには 成し遂げられなかった

ザ・ボディショップ・ジャパンCEO、
スターバックスコーヒー・ジャパンCEOなど、
数々の有名企業経営者を歴任された岩田さんに
MBAの学びについて伺いました。

— MBAを志した経緯を教えてください

日産自動車(株)に入社した時から志が高く、“社長を目指して頑張りたい”と宣言していました。当時の配属先は決して恵まれた環境ではありませんでしたが、そこに埋もれずに自分自身のチャレンジとして販売出向先のサニー大阪では優秀営業部員として社長賞を獲得し、留学のために死ぬ思いで英語に打ち込んでTOEICを300点から900点までスコアアップさせました。その甲斐もあって企業派遣としてUCLAにMBA留学できるチャンスに恵まれました。

— MBAで学んだ事で、その後の人生に影響を与えた事は何ですか？

価値観の多様性に気づいた事だと思います。UCLAの多くの仲間たちは、卒業後あまり大企業に行きたがらず、ベンチャー企業や起業家志向でした。私の場合は企業派遣だったので、帰国後は国際調達部から財務部に転部しましたが、当時の日本の大企業ではMBAは英語屋さんぐらいにしか評価されず、コンサルティング会社に転職を決意しました。経営者になりたい夢を果たす為、3期連続赤字のベンチャー企業の(株)アトラス代表取締役を引き受けました。これが経営者人生のスタートです。MBAに行かなければ、この人生のチャンスは巡って来なかったと思っています。

— MBAホルダーは、学びをどのように活かすべきでしょうか？

RBSの授業で、いろいろなフレームワークやロジック展開などを学んでいると思いますが、実際に自ら使い、本当に役立つ場面で活用しなければ意味がありません。学んだ事は実践で使ってこそ価値が高まる、知っているだけでは意味がないのです。例えば、自分の業務や、自分自身を企業や商品に見立てて、PESTやSWOT、STPなどフレームワークや思考の枠組みを使って分析してみてください。そして戦略や4Pなどを具体化してみるだけでもMBAを学んだ意義を実感できるはずですよ。私自身も社長という立場になり、あらためてコトラーやドラッカーの本の内容についてその凄さを実感しています。

— 多くの企業を経営された経験から「時間管理」はどのようにされていますか？

時間は最も大切な資源と考えるようにしています。私は企業にとって最も貴重な資源は経営者の時間だと思っています。時間は取り返しのつかない貴重な資源です。戦略策定と同じように何をやらないか、ということも大切です。皆さんもご自身が何にどれくらい時間をどのように使っているかをマネジメントしてみてください。本当に自分がやるべきことにちゃんと時間を割いているか？恐ろしくなると思いますよ。



立教大学大学院
ビジネスデザイン研究科 教授 **岩田 松雄**

Profile

大阪大学経済学部卒業、UCLA アンダーソンスクール卒業(MBA)。UCLA Alumni 100 Points of Impact (歴代全卒業生3万7千人から最優秀な百名)に選出される。日本人では4名のみ。日産自動車(株)で製造現場、セールスマンから財務に至るまで幅広く実務経験した後、外資系コンサルティング会社、日本コカコーラ常務執行役員を経て(株)アトラス代表取締役後に就任し3期連続赤字企業を再生する。その後(株)イオンフォレスト「THE BODY SHOP」代表取締役社長として売上倍増。スターバックスコーヒー・ジャパン(株)CEOとして「100年後も輝くブランド」に向け安定成長へ改革を進め業績を向上。“専門経営者”として確固たる実績を上げてきた。現在(株)リーダーシップコンサルティング代表取締役社長。著作は『ミッション 元スターバックスCEOが教える働く理由』(アスコム)、『「ついていきたい」と思われるリーダーになる51の考え方』(サンマーク出版)など多数。

— 教える立場から見たRBSに対するコメントを頂けますか？

“教えることは学ぶ事”を実感しています。RBSは幅広い業務経験のある院生が多く、私もいろいろ学生の皆さんから学ばせていただいています。RBSは違った年齢や経歴の方や、留学生など多様性を感じます。この環境をぜひ活用していただきたいですね。受け身ではなく、問題意識を強く持って授業の臨んでいる院生が多い講義は程よい緊張感と学びに深みが出ます。是非、引き続き積極的に授業に参加して欲しいと思います。

— 今回の時代にMBAを取得する意味とは

MBAという資格自体には、あまり意味はないと思います。現在では、MBAに対する周囲の理解が進んでいますが、同時にMBAを取得すること自体で差別化できる時代では無くなっています。パスポートや入場券と例えれば分かり易いでしょうか、要は、MBAでの学びと自分自身の経験とを今後どう実践に活かし、いかに自分自身を差別化してゆくのか？それこそが重要なポイントだと思っています。これは転職すれば良いとか、起業しなければダメだと言っているわけではありません。単なるスタートポイントに立っただけです。ぜひ目指して欲しいのは『会社の名刺が無くても生きて行ける人』です。そんな“本当の実力”とそれに裏付けられた自信のようなものが、RBSで身につけられたら素晴らしいと思います。

— RBS現役生へのメッセージをお願いします

RBSで学んだ共通言語を用いて会話ができる仲間、同期や先輩後輩とのネットワークを大切にしてください。私自身、今でもUCLAの仲間との関係が20年以上続いています。

小説とは、主人公を物語の冒頭とラストと比較すると、そこには必ず成長があってその過程に読者は共感します。みなさんも大学院での二年間を小説のように、ラストには成長を実感できるようなストーリーを描いてください。そのためには必死になって勉強をして欲しいと思います。卒業後も私自身も厳しい状況をたくさん経験して来ました。しかし苦しくて倒れても、絶対に諦めないで、再び顔を上げて起き上がってください。そのためには自分自身を信じる気持ちが大切です。RBS修了がその「自信」の裏付けになるよう頑張ってください。

取材/文：BizCom 編集委員 亀田さおり、小松智子、杉山 章